

三木ロータリー週報

会長・稲見 秀穂 幹事・横尾加名子 S.A.A. 石井 盛久 クラブ会報委員会一発行

例会日・毎週金曜日12:30~13:30 例会場・三木商工会館4階大会議室 TEL (0794)82-3190

事務局・兵庫県三木市本町2丁目1番18号 三木商工会館内 TEL (0794)82-8880 FAX (0794)82-0909

URL: www.miki-rc.jp E-mail: info@miki-rc.jp



Rotary よいことのために手を取りあおう

三木ロータリークラブ2025-2026年度テーマ さりげなく

2025年 8月29日

NO. 8 (NO.3273)

今回のプログラム 8月29日 会員卓話 小藤貴雅 会員 ゲスト講師：川上文吾 様(三木税務署 署長)
「e-Tax・キャッシュレス納付の利用拡大に向けた取組
～制度上の対応・システム改修の内容を中心に～」

次回のプログラム 9月 5日 会員卓話 吉田直幸 会員
「二回目の自己紹介と相続登記制度の現状について」

本日のソング ♪ 四つのテスト ♪

次回9月5日のお弁当は荒川さんです S.A.A.

ホームページ会員専用
ID: mikirc
PW: miki1230

出席記録	会員数	出席者	当日出席率	メイクアップ他	出席率
本日	50名中				
8月 8日	50名中	29名	29/40 72.50%	3名	32/40 80.00%
8月22日	50名中	32名	32/40 80.00%	0名	32/40 80.00%

◇8月 8日のメイクアップ 出席者 井本太君・坂井幸嗣君・友定道介君 (理事会)

◇8月22日のメイクアップ 出席者

前回例会2025年8月22日の記録

【会長の時間】

まず会員関係のご報告です。石井会員のお嬢様のご結婚されますので、本日お祝いをお渡しいたしました。一方で本岡会員の奥様にご不幸があり、心よりお悔やみ申し上げます。

前回の家族同伴納涼例会では坂本親睦委員長をはじめ委員会の皆様に感謝いたします。普段あまり好まないマジックショーでしたが、指定したカードが瞬時に現れる不思議な技に大いに楽しませていただきました。

さて、知床での痛ましいヒグマ事故には大きな衝撃を受けています。かつて人を襲わないといわれた知床のクマも、今では身近な存在です。一昨年訪れた岩尾別温泉でも怖さから露天風呂を諦めたほどでした。40年前にはほとんど見られなかったクマが今は増え、鹿やキタキツネも宗谷本線から普通に見られます。人と野生動物の共存の難しさを実感します。

本日は山本様より大台ケ原のお話を伺えることを楽しみにしております。私の夢は大台ケ原から富士山を眺めることです。以上で会長の時間を終わります。

【幹事報告】

- ・福永信彦ガバナー補佐と数名の方が来週の例会にいらっしゃいます。
- ・例会終了後、ガバナー補佐同席クラブ協議会に関係者の皆様は、ご出席をお願いいたします。



【委員会報告】

出席 本日の出席は会員 50 名中 32 名出席で、出席率は 80.00%です。

ニコニコ箱 (*^-^*)

合計 ¥108,000円

森永 英樹 君 一週遅れになりましたが坂本委員長はじめ親睦委員会の皆さん、納涼例会お世話になりました。ありがとうございました。

石井 盛久 君 明後日24日、日曜日に横浜に居る娘が神戸で結婚式を挙げます。新郎も大阪育ちですので、こちらで式を挙げてくれます。洋服の青山でモーニングをレンタルして、バージンロードを歩いてきます。これからも幸せな家庭を築いて行って欲しいです。ロータリーの皆様、お祝いをいただきましてありがとうございます。返杯にてニコニコさせていただきます。

会員卓話 藤本 勉 弘 会員 ゲスト講師：山本 治之 様「100名山・大台ケ原の四季」

藤本勉弘 会員

三木 RC 会員歴約 40 年で、今回の卓話担当にあたり、三木高齢者大学写真クラブで一緒している山本治之先生に講師をお願いしました。山本先生は78歳のプロ写真家で、全国で写真展を開催し、「四季大台ケ原」などの写真集も出版されています。



講師 山本治之氏



写真家の山本治之と申します。本日は、13年間通い続けて撮影した大台ケ原の魅力をご紹介します。大台ケ原は日本百名山の一つで、奈良県と三重県の県境に位置します。ここから富士山が見えることもありますが、直線距離で280キロ離れているため、実際に目にできたのは13年でわずか2度だけでした。一般には秋の澄んだ朝に現れるとされますが、私が見たのは梅雨の晴れ間。遠くにかすかに浮かぶその姿は、近くの山並みとほとんど高さが変わらず、隣の方に確認してようやく富士山だと気づいたほどです。大台ケ原へは車で八合目まで上がり、頂上までは1時間から1時間半ほど。ただしドライブウェイは5月連休明けから11月までのみ開通し、冬は閉鎖され徒歩でしか行けません。

春は毒草バイケイソウの群生が印象的です。鹿が増え林床の植物が食べ尽くされる中、毒をもつため残り、美しい芽吹きを見せます。花は痩せた土壌ゆえツツジ類が中心で、特にシャクナゲが多く、樹齢100~200年の大木もあります。ただ自然のままなので満開は5~7年に一度。その貴重な瞬間と霧を求め、会社勤めの傍ら通い続け、7年目ようやく一枚を収めました。大台ケ原は「一年に366日雨」と言われるほど湿潤で、霧が織りなす神秘的な風景はここならではの。有名な大蛇岨では千メートルの谷を見下ろせ、アケボノツツジが彩ります。谷から霧が立ち上る瞬間を狙いましたが、ついに会うことはありませんでした。

夏は苔の季節。木や岩を覆う苔が鮮やかな緑を広げます。正木峠では伊勢湾台風で枯れたトウヒの群落が朝日に照らされ、幻想的に輝きました。その写真は三木市展で市長賞をいただきました。

秋は紅葉と霧が織りなす幻想的な季節。中でも印象深いのは零下10度で発生する霧氷です。過冷却の霧が木々に触れ瞬時に凍り、白い花が咲いたような世界が広がります。わずか10分で景色が劇的に変化する様子に何度も心を奪われました。

そして冬。最も過酷で、同時に最も魅力的な季節です。ドライブウェイ閉鎖後も撮影したくて、テントや食料をソリに載せ、雪道12キロを10時間かけ単独で登りました。山頂で1週間過ごしましたが、晴れ間はわずか1~2日。それでも熊野灘から昇る朝日が樹氷をピンクに染めた瞬間は、5分足らずでしたが大台ケ原を独り占めするような贅沢でした。極寒でレンズが曇り、魚眼で撮るしかなかった一枚も、今では大切な記録です。

こうして13年、延べ100回以上通い、四季の表情を追いまわしました。特に冬の写真は苦労と共に情景が蘇ります。こんなに美しい風景を自分一人で切り取っていいのかもしれないながらシャッターを切った瞬間を、今でも昨日のこのように覚えています。

本日は短い時間でしたが、大台ケ原の四季を少しでも感じていただけたなら幸いです。ありがとうございました。

